



済生会東神奈川リハビリテーション病院

痙縮外来のご案内

痙縮(けいしゆく)ってどんな症状？

脳や脊髄の病気により、無意識に筋肉が緊張しすぎて、動かしにくかったり突っ張ったりする状態のことです。手指が握ったまま開きにくい、肘が曲がったまま伸びない、つま先が足の裏側のほうに曲がってしまうなどの症状であり、着替えや入浴が難しい、歩きにくい、突っ張っているところが痛い、など日常生活に支障をきたす状態です。



ボツリヌス療法について

痙縮治療のひとつとして「ボツリヌス療法」という治療があります。痙縮のある筋肉に、ボツリヌス菌が作り出すタンパク質を注射します。これによって筋肉を緊張させている神経の働きを抑えることができ、手足を動かしやすくなります。生きたボツリヌス菌そのものを注射するわけではないので、ボツリヌス菌に感染する危険性はありません。

診察

痙縮の症状や程度などを確認し、ボツリヌス療法適応か判断します。
適応となった場合、次回実施日の予約を取ります。

ボツリヌス療法の実施

痙縮部位の筋肉に注射をします。一回の治療にかかる時間は30分～1時間程度で、効果は2、3日で現れてから3ヶ月程度持続します。

効果確認のための診察

ボツリヌス療法後1ヶ月程度で身体の動きなど診察し、効果を確認します。効果が得られている場合は次回注射日程を相談します。その後は経過の診察と注射を繰り返します。

※当院の「痙縮外来」は完全予約制です。まずはお電話でお問い合わせください。

<外来予約> 045-324-3600

<受付時間> 9:00～15:00

